

人と作品、人と人、人と場所をつなぐ

Art Communication

美術館が作品を鑑賞する場にとどまらず、鑑賞を「体験」として、より深める場所になるように、さまざまなアート・コミュニケーション・プログラムを展開しています。

今回は、超高齢社会に対応する「Creative Ageing ずっとび」の活動をご紹介します。

The Museum offers art communication programs designed to take visitors beyond simple viewing to a deeper "experience" of the artworks. This time, we look at "Creative Ageing Zuttobi" activities serving the needs of super-aged society.

シニア世代を対象とした美術館事業

クリエイティブ・エイジング 「Creative Ageing ずっとび」

Art museum activities for older adults.
"Creative Ageing Zuttobi"

Creative Ageing **ずっとび**

2021年から新しく始まったシニア世代を対象とした事業「Creative Ageing ずっとび」のロゴと特設サイトができました。特設サイトでは、プログラムのお知らせや活動の様子、国内外の高齢者向け文化事業の取り組みについて紹介しています。

A logo and website have been created for "Creative Ageing Zuttobi" activities for older adults, launched in 2021. The website will feature program announcements and activity scenes, and initiatives for cultural projects designed for older adults in Japan and abroad.

「Creative Ageing ずっとび」とは？

What is "Creative Ageing Zuttobi"?

東京都美術館は、子どもから高齢の方まで、歳を重ねてからも「ずっと」通いたくなる美術館でありたいと考え、超高齢社会に対応する事業を始めました。歳を重ねる中で、作品と人がクリエイティブに出会える、参加型のプログラムなどを積極的に作っていきます。

The Tokyo Metropolitan Art Museum—a museum that people can enjoy throughout their entire lives. With this concept in mind, the Museum has launched activities serving the needs of super-aged society. "Creative Ageing Zuttobi" will actively provide older adults with participatory programs for creative encounters with artworks.

超高齢社会に対応する美術館の実践

Museum's challenge towards a super-aged society

近年、国内外のミュージアムや文化活動では、高齢化に対するさまざまな取り組みが始まっています。例えば美術館にある作品をシニア世代と若い世代が一緒にみて、対話する異世代交流や、認知症のあるシニア世代やその家族を対象とした回想法のプログラムがあります。人とのつながりが少なくなりがちなシニア世代が増加している状況に対し、このようなミュージアムの活動は社会参加の機会を作り、健康にもよい影響があると考えられています。イギリスなどでは、病院で患者に薬の代わりに社会参加の機会を処方する「社会的処方」と呼ばれる取り組みが進められるなど、ミュージアムと介護や医療従事者の連携が広がっています。

東京都美術館でも2021年度より、シニア世



「Creative Ageing ずっとび」の特設サイトトップページ

"Creative Ageing Zuttobi" website homepage
<https://www.zuttobi.com>



「おうちでゴッホ展」のキービジュアル

Key visual for "Enjoy the Van Gogh Exhibition at Home"



「おうちでゴッホ展」で鑑賞した作品のポストカード（事前に参加者に送りました）

Postcards featuring paintings viewed in "Enjoy the Van Gogh Exhibition at Home" (posted to participants beforehand)

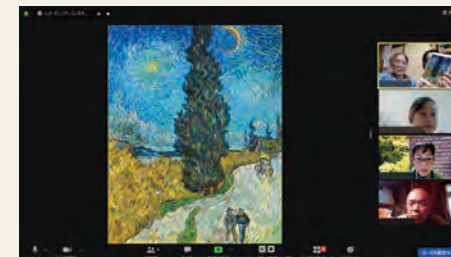
代の方々がより主体的で創造的に楽しめる機会を増やすことを目指し、「Creative Ageing ずっとび」を始めました。「ずっとび」は元気なシニア層が参加するプログラムだけでなく、アートが好きだけど身体的なハードルから美術館を疎遠に感じてしまうシニア世代に対しても、美術館での鑑賞や社会参加の機会を作りたいと考えています。

2021年の11月には、当館では初となる、認知症の方とご家族を対象としたオンライン鑑賞プログラム「アート・コミュニケータと一緒に楽しむ おうちでゴッホ展」を実施しました。全国各所から11組22名の方が参加し、アート・コミュニケータ（愛称：とびら）と一緒に、「ゴッホ展——響きあう魂 ヘレーネとフィンセント」（2021年当館にて開催）の展示作品を鑑賞しながら対話を楽しみました。プログラムの概要説明を行った後、参加家族ごとに、とびら2〜3人とグループになり、オンライン上の個別の部屋に分かれました。参加者は作品を見ながら、心に浮かんだことや思い出したことについて対話を楽しみました。

プログラムの終わりには、認知症のある本人から「作品からみんなでいろいろと想像できて楽しい」などの感想がありました。また、家族の方からは「こうした取り組みが認知症の母にとって何かしらの刺激や楽しみに繋がる可能性を知りました」といったコメントが寄せられ、作品を見ながら対話を楽しむプログラムが、人々の生活の質（QOL）を向上させるような、豊かな時間を生み出す可能性を感じました。

東京都美術館は2026年に開館100周年を迎えます。国内で初の公立美術館として、さまざまな時を刻んだ「都美（とび）」ですが、これからも「ずっと」人々の心の豊かさの拠り所となるように、クリエイティブで多様な活動を行ってきたいと思います。

（東京都美術館 学芸員 藤岡勇人）



フィンセント・ファン・ゴッホ《夜のプロヴァンスの田舎道》を見ながら話すとびらと参加者

Participants and *Tobira* discussing Vincent Van Gogh's *Country Road in Provence by Night*

Varied initiatives for super-aging society are underway in museums and cultural projects in Japan and abroad. In fiscal 2021, the Tokyo Metropolitan Art Museum launched "Creative Ageing Zuttobi" activities serving Japan's super-aged society to give older adults greater opportunities for self-initiated encounters with artworks. Hereafter, it will actively offer the participatory programs for creative encounters with artworks. In November 2021, we held its first program for people with dementia and their families: "Enjoy the Van Gogh Exhibition at Home with Art Communicators ("Tobira")". Twenty-two people in locations across Japan took part from their homes using the Zoom. They enjoyed talking with art communicators while viewing the exhibition "Collecting Van Gogh: Helene Kröller-Müller's Passion for Vincent's Art" (Tokyo Metropolitan Art Museum, Sep 18 to Dec 12, 2021).

(FUJIOKA Hayato, Curator)